

シリーズ「アメリカン・ディアスポラ」第4回

アメリカ大陸の基層には、移動性が組み込まれている。「アメリカン・ディアスポラ」シリーズでは、アメリカ大陸を移動・還流する人々に焦点をあて、主要な受け入れ側である北米とともに、送り出し側のラテンアメリカの双方の視点から、多様なディアスポラによる社会変化について考えてみたい。

米国におけるラテンアメリカ系 住民の言語文化と公教育

—スペイン語と英語によるバイリンガル教育の歴史と成果—



牛田千鶴

うしだ ちづる

南山大学スペイン・ラテンアメリカ学科教授

2010年の国勢調査を通じ、アメリカ合衆国に居住するラテンアメリカ系の人々は前回調査時（2000年）より1500万人増の5050万人（米総人口の16%）に達していることが明らかとなった。ヒスパニックあるいはラティーノと呼ばれるスペイン語圏出身者集住地区が全米各地に散在し、米社会における彼らの存在は、言語文化の拡がりとともにますます顕著となっている。そうした現状に触れる一方、公教育において移民の子どもたちの母語と英語をともに用いて授業を展開するバイリンガル教育に焦点を当て、いくつかの州の事例を比較しつつ、その成果について考えてみたい。

日時： **10** 月 **24** 日 (月)

17:30-19:00

会場： **博遠館 212** 番教室

来聴歓迎・予約不要

同志社大学
グローバル・スタディーズ研究科

tel. 075-251-3930

e-mail. ji-gs@mail.doshisha.ac.jp